

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		よこはまりバーサイド泉Ⅲひまわり		公表日		2026 年 3 月 25 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		・当日の利用人数を考慮して事務作業や休みなど勤務の調整ができています。	・有休他休みはやむを得ないが他部からの応援で賄っていることもある。(送迎等)	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1		・タブレットを導入できるとより便利で快適な環境が整う。 ・避難経路に段差があるため適切とは言えない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		・気持ちの切り替えや体調不良など個別対応が必要な時には、別室対応をしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1	・朝・帰りの会、ミーティング等で現状確認、課題・業務の見直し検討が行われている。	・個々で行っているが、全体として機会が設けられているわけではないので曖昧。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・イベント等の後日にアンケートを実施し、意見や感想、希望を集めることができた。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・朝・帰りの会他、MTG、事務時間を利用して意見交換ができています。 ・朝・帰りの会、又ミーティング等で、現状確認、課題・業務の見直し検討が行われている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3		・生活介護では第三者委員の評価が定期的にあるが、放デイはできていないため第三者機関による評価を検討していきたい。	
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		・各委員会、法人内研修など年に数回行っている。	・以前よりも研修の機会が少なくなっているため充実させていきたい。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		・HP内で公表されており、職員間でも作成、周知ができています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		・ケアプラン作成時の聞き取りや日々の聞き取りの上で作成することができています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		・リハスタッフや看護師といった他職種の職員も含めて検討することができています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		・ケアプラン内に含まれており、一人ひとり適切に設定されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		・活動MTGで意見を出し合うことができおり、プログラムの方向性・ねらい・関わり方について、明確にし、共有し、より具体的な支援をすすめられている。		

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		・活動MTGで内容について振り返りを行い、次への改善につなげている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		・個別支援計画に基づいた専門的支援を実施し、集団活動と個別活動を組み合わせた支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		・毎日必ずその日の支援についての打ち合わせができています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		・帰りの会、または翌日の打ち合わせにて振り返りを行うことができています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		・日々の活動や看護記録、専門的支援の記録を取り、毎月のMTGでまとめて検証・改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		・半年に一度ケアプランのモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	4			・地域交流の機会については近隣施設との関わりを行うことができたが、今後も検討が必要と思われる。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		・活動や日々の関わりの中で小さなことでも選択の機会を設けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・児発管及び担当者がカンファレンスやモニタリングに参加しMTG等で共有することができている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	2		・現時点で情報を必要とする場面はないが、今後必要とされる時のためにも繋がりを要する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	2		・機会を設ける事が出来ていないが、地域の資源利用時にごく自然な形で関わりあう機会から始めていく形をとっていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		・ケアプラン作成時の聞き取りや日々の聞き取りの上で共通理解を持つことが出来ている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3		・交流会などで職員とご家族と一緒に参加できる支援プログラムや研修の実施を検討していきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		・利用契約時に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		・今年度は例年通り6月に交流会、10月にフェスタを開催することができた。また、新しい試みとしてオープンひまわりを夏季休暇対応時に開催し、活動に参加型で保護者同士の交流できる機会を設けた。	・兄弟同士の交流、以前はできていたが今はできていない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		・定期的にHP（ブログ）、Instagramにて日々の活動や事業所行事について発信している。 ・非常時の連絡についてはマ・メールを使用している。	・HPやSNSの情報配信を手軽に行えるよう改善が必要と思われる。（タブレットの導入等） ・マ・メールについては定期的にテスト配信を行うことで保護者や職員にとって身近なものという認識を定着させるべき。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		・地域住民のフェスタを開催している。	・地域への開き方については、まだまだ検討が必要と思われる。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			・ご家族を含めた訓練も必要と思われる。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			・ご家族を含めた訓練も必要と思われる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		・服薬情報を都度共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		・交流会において、安全計画について説明を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		・報告書を作成し対策、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		・虐待防止・身体拘束適正化委員会において職員研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		・虐待防止・身体拘束適正化委員会において職員研修を実施している。		